



第 204 回例会・報告

氷ノ山・千本杉ヒュッテ整備

今年も春の整備を目的に千本杉ヒュッテに現役、OB が登った。初日は寒気が日本海に入ったせいで肌寒く時折霧雨が降るような空模様だったが、翌日は暖かくよく晴れた。

今年の冬を乗り切ったヒュッテだが、東西にある小屋根の垂木が腐って損傷しているのを発見した。早急なる修理が必要だ。ストーブのスノコが焼けて脆くなったせいでバラバラになってしまった。のぞき窓のガラスも止め金具が焼け落ちている。そろそろ本体ごとの入れ替え時期ではなからうか。

現役二人がよく働いてくれ薪づくりも進んだ。乾燥させるためにデッキに積んでおいたが秋口には小屋の中に移動しなければならない。不要になったガスカートリッジの空き缶が多数残されていたが、これらは持ち帰った。

水道はしっかり水が出ていた。水源近くの塩ビ管にひびが入っていて漏水していたがいずれ修理が必要だろう。

1961 年竣工のヒュッテも 56 歳になった。あちこちガタがくるのも仕方のないことだが、こまめに修理していく必要がある。今回の整備には 7 名が参加したが、別途修理が決まった節には人手がいりそうだ。

記

◆期日 2017 年 5 月 27 日(土)～28 日(日)

◆参加者 山岳部学生: 熊田裕信 國藤光成

山岳会: 山田健(幹事、リーダー) 東郷賢治 金井良碩 井上達男 和光広典



氷ノ山頂上にて 金井 和光 山田 井上 東郷 熊田 國藤



◆行動記録

2017年5月27日(土)

12:00 大段ケ平 駐車場集合 曇り(朝から降っていた霧雨は止んでいた)

前日からねむの木山荘に泊まっていた和光さんと井上が待っているとちょうど12時に金井車と山田車が到着。ベンチにて昼食後に三々五々ヒュッテに向かって出発。スズの子のシーズンで駐車場には多数の車が止まっていた。登山口の東屋は昼食の人たちに占拠されていて我々は傍らのピクニックテーブルで昼食を摂った。

ロートルはスズの子を採りながらゆっくりと登る。登山道脇の笹藪にはタケノコ取りがあちこちに潜り込んでいて時折ヌーと登山道に顔を出してくる。大段ケ平あたりはもう遅いぐらいでヒュッテあたりが最盛期だ。登山者に交じってスズの子だけを目的に入山している人たちも多くみられた。

ヒュッテに到着すると窓を開放したり、水道の確認をしたり、シュラフを広げたりしたのちにデッキに机と椅子を出して早速酒盛りと相成ったが、寒くてビールが進まない。一息ついたのちに薪集めにかかった。千本杉まで登ると枯れ木や枯れ枝が沢山ありヒュッテに下して鋸で切断。ヒュッテ担当の山田さんは井上がチェーンソーを持参してくるのを期待していたようだが、井上はそのことを全く考えていなくて期待に沿えなかった。

山田さんは小屋の中でストーブに火を入れて夕食の準備に忙しく働いてくれた。他の6人はせせと薪づくりに精出し。夕食までにまずまずの薪をデッキに積み上げた。長老の東郷さんは森の学校の指導者でもある。鋸や鉋の扱いが手馴れている。学生たちはその指導で少しはうまくなったであろう。例年の一冬に消費する薪の量を考えると少し不足かもしれない。秋口にもう少し薪づくりをしたいものだ。

夕食は恒例の「氷ノ山鍋」だ。ヒュッテ担当前任者の金井良さんに代わって前年度から山田さんの担当となったがその山田さんの味付けだ。トマト味に夏野菜たっぷりのシチューは美味でお代りを三度もした人がいた。

山田さんが自分の結婚披露宴でキャンドルサービスをした大きなろうそく(高さ50cm)を持ちあげてきた。上から30年分のメモリがつけてあり、毎年の結婚記念日に点けて楽しむようになっていたとの説明。しかし、結婚式以来お蔵入りしていたようでヒュッテの夜長に灯して楽しんだ。少し燃えてメモリが進むと新婚だ、倦怠期だの言いながら3年目のメモリまで燃やしたかな。

22:00 就寝 ヒュッテは夕方ガスに包まれていたが寝るころには満天の星空になった。

2017年5月28日(日)

晴れ

朝日が射した明るいデッキでラーメンの朝食を摂っていると東尾根から高校の先生が登ってきた。今日は播但地区高校の登山大会だとかで100名ほどの生徒たちが登ってくるという。食後のコーヒーを楽しんでいると元気な高校生たちが次々に到着する。ヒュッテは格好の休憩場所だ。水道は分岐した枝線があり、ヒュッテの外でも水を得られるし、良く育ったブナが木陰を作っているのが快適だ。我々がいなければ彼らはデッキでくつろぐところだっただろう。

朝食後にヒュッテの掃除を済ませて全員で山頂に行った。千本杉の林の中にわずかに残雪があった。今年、春が遅かったので今日まで残っていたのだろう。行き交う多くの登山者と挨拶を交わしながら久し振りに氷ノ山の頂上に立った。十代に初めて登って以来、40年間に幾度登ったことか。

大山が見えるのではないかと期待していたが、雲が漂っていて見ることはできなかった。



12:00 大段ヶ平に下山 解散

現役 2 人と金井さん、井上は養父温泉にて汗を流して帰宅の途に就いた。

以上 井上達男 記



ねむの木山荘 5/26
和光、井上二人の宴会



大屋の避難小屋
山田 金井



東側の小屋根 垂木折損



西側の小屋根 垂木折損



デッキでくつろぐ 熊田君は未成年でお酒は飲めず



東郷大先輩も薪づくり



まがった枯れ枝は切断に苦勞



積み上げた薪



高校生たちの大会でヒュッテは賑わう



古生沼あたりから山頂の避難小屋



くたびれてきたストーブ



扇ノ山 1309.9m



鉢伏山 1221.6m



スズの子 東北ではヒメタケと呼ぶそうだ



5/28 12:00 大段ヶ平にて解散